

## 「国保の業務に携わり感じること／健康づくり・趣味について」



坂祝町住民課長

堀部 芳章

平成27年10月の人事異動で住民課長を拝命して3年目になります。入庁から25年が経ちますが、これまでは、総務や企画といった部署が長かったのですが、一度も経験のない課であります。また、税務課との兼務ということでも、当初は業務とその内容に戸惑い、不安だらけの日々でした。特に初めての住民課には、国民健康保険、後期高齢者医療などを扱う保険係と戸籍や住民票などを扱う戸籍係があるのですが、双方に出てくる専門用語は初めて聞く言葉ばかりで、またその制度の理解に苦しみました。しかし、「行政サービスの根幹の部署である」という気概を持って業務に当たっております。そして、しっかりと支えてくれる職員たちに感謝しつつ、会議等で他市町村の課長さんたちと情報共有できることをありがたく思っています。

坂祝町の特徴は、平成28年度の医療費水準、特に年齢構成調整後の医療費水準が、岐阜県内で最も低く0・9を下回りました。当町は、生産年齢人口の割合が高く、高齢化率が低い方ですが、そのような人口的要因だけではなく、町民の健康意識が比較的高いのではないかと思っています。担当としても特定健診には力を入れており、平成27年度からは完全無償化を実施しております。また、毎年受診率の目標を数値化し、その達成に向けて啓発等に努めています。その結果、受診者は年々増加傾向で、昨年度の受診率は51%を上回りました。これもまた県内では上位に位置しています。

国保では、こうした取り組みを行っています。が、福祉分野においては、町内各地区において70歳以上の高齢者が集まって、レクリエーションや食事会などが開催されています。高齢者のひきこもり防止や地域の方たちとのふれあいの場になっていて、皆さん笑顔で楽しんで参加されています。健康は、身体的・精神的・社会的に良好な状態のことで、このうちどれかが欠け

てはいけません。が、精神的な健康を害することが最も危険なことだと思っています。当町の医療費水準が低いのは、高齢者の方たちがこうしたサロンの活動に参加されることで精神的な健康＝身体的な健康が保たれているからなのかもしれません。

それに比べて自分はストレスを溜めやすい性格のようです。ご存知のように、ストレスは胃炎や不眠症、うつ病などを引き起こす可能性が高い万病の素になるものです。以前は野球やゴルフなどを定期的にプレーし、そのための筋力トレーニングがストレス解消の方法でしたが、年齢を重ねた今では体力が衰えたこともあって、めっきり減ってしまい、運動から遠ざかってしまっています。

その代わり……日本史好きに関連してお城や宿場町のような古い街並み散策や古民具を作るといったことをやっています。綺麗な景色や「和」のものに触れると精神的に落ち着いてくるのです。でも、やはり精神的な健康と体力的な健康の両方が備わってこそその健康なので、これからは運動することも少しずつ増やしていきたいと思っています。

さて、30年度からはいよいよ県広域化が始まります。県を中心に県内市町村との協議が進められていますが、新たに入手する情報に戸惑いと不安を覚えます。いまだ先行き不透明で不安の多い国保の新制度は、いつになったら安定的な運営ができるかも見えません。しかし、いざれにしても私たちが見えなければならぬことは、被保険者の方たちに過度な負担を強いることのないよう、そして安定的な保険サービスを提供していかなければなりません。やるべきことも思いも、県内市町村だけでなく、全国の国保担当職員は皆同じ立場です。一緒に頑張っていきたいと思えます。